

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	岩井 智子	福祉	H2301113
	②	小田嶋 ひろ子	経営	H2301098
	③	坂内 八重子	福祉	H2401119
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	代沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	155-0032		
	所在地	世田谷区代沢5丁目1番10号		
	TEL	03-3413-1412		
事業所代表者氏名	事務局長 野崎 仁			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 24 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 27 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 24 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 3 日			
評価合議日	2025 年 10 月 3 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)所管課から示される基準、方針等に基づいた運営をする 2)子どもとともによりよい環境をつくりその過程で子どもの育ちを支援する 3)どうしたら安全で楽しく活動できるか、子どもの声、表情、行動から学び、その手立てを探る 4)「遊び」「生活」「理解・かかわり」のチームを編成し課題の解決策を提案する。課題を共有、共通実践する 5)仕事に職場に誇りを持てるよう「ひと自分も大切にしましょう」</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務に必要な知識とスキルを高める努力を継続する人材 ・日常業務を遂行する中で課題を発見し解決策を提案する力のある人材 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>新BOPが設置されている意味、果たす役割を理解し誠実に職務に当たる</p>

調査対象 調査方法	登録児童全員を対象とした。 Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。
--	--

利用者総数 133

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	133	0	133
共通評価項目による調査の有効回答者数	39	0	39
利用者総数に対する回答者割合(%)	29.3	0.0	29.3

利用者調査全体のコメント

調査対象者133名のうち、39名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「間食の時間が楽しいひとときになっているか」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「職員の接遇・態度は適切か」などがあげられる。
 総合的な満足度では、35名が「大変満足、満足」、2名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」と回答している。また、「学童クラブはすごくいい」「もっと校庭や体育館で遊びたい」「自分が楽しくないと思うことがある」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	31	5	2	1
31名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「友達とたくさん遊べるから楽しい」「風船バレーが楽しい」「漫画を買ってほしい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	33	3	1	2
33名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生はみんな話を聞いてくれるから相談できる」「先生に相談したら注意してくれて助かった」「声をかけてくれるのが嬉しい」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	34	4	0	1

34名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「間食がおいしい」「友だちと食べられて嬉しい」「間食の量を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	21	4	0	14
21名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ちゃんと聞いてくれる」「あまり意見を言ったことがない」「話し合いに参加したことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	28	4	2	5
28名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「先生の話はわかりやすい」「いつも話してくれる」「たくさん話すから、どれが大切な話だったのかわからない」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	12	5	0
22名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。また、「いつもきれいだと思う」「決められた場所に他の物が入っていて片付けられないことがある」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	31	5	2	1
31名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「服装など自由でいい」「言葉遣いが気になることもある」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	1	0	1
37名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「鼻血が出たとき助けてもらった」「安全に過ごせている」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	3	1	6
29名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「何かあればすぐに来てくれる」「嫌なことがあった時は先生が話を聞いてくれる」「先生に気づいてもらえなかったことがある」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	31	4	1	3
31名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「何かあったら話を聞いてくれる」「先生によって対応が違うことがある」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	23	3	0	13
23名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「秘密は守ってくれると思う」「先生によって違うと思う」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	31	3	1	4
31名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「解決してくれる」「相談したけど解決していない」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	13	4	2	20
13名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」、20名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念や基本方針の理解を深め、自己及び組織の課題を確認しながら取り組みを進めている クラブでは、理念や基本方針の理解を深めるため、職員に対して定期的に運営方針のチェックリストを実施し、自己及び組織の課題を確認する仕組みを整えている。これにより、職員は改善点を把握し、理念の実現に向けた方向性を共有できている。また、子どもには毎月2回の講話や懇談を通じて理念を伝え、家族には「新BOPだより」や通信システムを活用して周知を図っている。こうした取り組みは、職員・子ども・家族が共通理解を持ち、事業所の目指す方向性に沿って一体感を持って活動できる基盤となっている。	
	事務局長らがリーダーシップを発揮し、職員の創意工夫を尊重しつつ方向性を示している 事務局長らは、日々の打合せや月1～2回のロングミーティングを通じて、重要事項を職員に周知し、自らの役割も明確に示している。さらに「新BOP職員の勤務について」や、「新BOPの運営について」といった文書を作成し、職員が取り組むべき方向性を具体的に提示している。これにより、職員は自らの役割を理解し、理念の実現に向けた行動につながっている。事務局長らは、職員の創意工夫を尊重しつつ方向性を示すことを重視しており、リーダーシップを発揮しながら組織の一体感を高めている。	
	重要な案件は、クラブの実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 年間計画などの重要案件の決定では、原案提示から検討・決定までの手順が定められており、拙速を避けて時間をかけて進められている。課題はチームで話し合ったうえで全体に提案する流れが確立され、職員への周知も丁寧に行われている。子どもに関すること、例えば、夏休みの過ごし方なども子どもの意見を聞きながら決めており、主体的な関わりを促す工夫が見られる。さらに、新BOP連絡協議会で保護者や地域の意見を取り入れる仕組みもある。意思決定の透明性と参加性が、クラブ運営への信頼性を高めている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>子どもの意向を把握するため意見箱を設置し、生活チームで集約している</p> <p>子どもの意向を把握するために意見箱を設置し、生活チームで集約している。職員の意向は日々の打合せやロングミーティングで確認し、重要案件は事前に児童指導職員と検討している。地域の福祉ニーズについては、ひとり親家庭向けの冊子や子ども家庭支援センターからの情報を活用して把握している。また、予算執行状況、職員の休暇、施設設備など、クラブの運営状況についても把握し、課題があれば対策を検討している。情報収集と課題抽出は、職員チームによる改善活動につながり、組織的な対応力を高めている。</p> <p>チェックリストで抽出された課題を踏まえ、理念の実現を目指して計画を立てている</p> <p>区の中・長期的な方針に基づき、チェックリストで抽出された課題を踏まえ、理念の実現を目指してクラブの年間計画を立てている。異動や育児休業など職員の状況が厳しい中で、「今の体制でできることを最大限実現し、単年度ごとに計画を立てて達成することで職員の意欲を高めたい」という意向がある。運営方針に基づいた単年度計画が策定され、予算も有効に活用し、重点分野に配分する工夫が見られる。限られた資源の中でも改善を重ねながら、よりよい運営を目指している。</p> <p>計画の推進方法や職員の役割を明示し、チェックリストを用いて達成度を確認している</p>		

計画の推進方法や職員の役割を明示し、チェックリストを用いて達成度を確認している。運営方針の各項目が8割を超えれば達成とみなし、ロングミーティングで振り返りを丁寧に行っている。計画の進捗は半期や月単位で確認され、必要に応じて見直しが行われている。実施過程では子どもの反応を観察し、新たな課題に気づいた際には新しい試みを工夫するなど、柔軟な対応がなされている。

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

児童福祉従事者としての法・規範・倫理を職員に周知し、遵守するよう取り組んでいる

児童福祉従事者としての法・規範・倫理を職員に周知し、理解を深める取り組みを行っている。具体的には、子どもへの言葉遣いや接し方への注意、事故事例の紹介、人権チェックリストの配布による自己点検などが実施されている。年度初めにも確認するほか、臨時職員への勤務条件提示時の説明もあり、徹底を図っている。事務局長会での事例報告や日常的な声掛けもあり、職員の意識を高めている。こうした取り組みが職員一人ひとりが自らの行動を振り返り、倫理的な姿勢を維持する基盤となっている。

利用者の意向や苦情を把握し、迅速に対応する体制を整えている

利用者の意向や苦情を把握し、迅速に対応する体制を整えている。区への相談が可能であることを利用者に伝え、意見を述べられる環境を整えている。職員は苦情を丁寧に聞き取り、児童指導や事務局長、児童館長へ報告し、必要に応じて助言を受けている。児童館長も頻繁にクラブを訪問している。虐待防止については、複数対応や事例の共有を通じて職員同士が助言し、日常的に言動を振り返る体制を築いている。児童館や子ども家庭支援センターと連携する仕組みもあり組織的な対応力を備えている。

「新BOPだより」や連絡協議会での説明により活動内容を公開し地域の理解を得ている

毎月の「新BOPだより」や連絡協議会での説明により活動内容を公開し、地域の理解を得ている。地域音楽家によるコンサートのイベントを通じて交流を深め、中学生の職場体験も継続的に受け入れている。さらに、地域まつりでは、保護者の承諾を得て子ども実行委員会に参加している。拡大学校協議会や地域懇談会への参画を通じてネットワークを広げ、共通課題に協働する体制も整えている。地域福祉のニーズに応え、クラブが地域の一員として信頼を得るように努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>事故・感染症・災害など事業継続を妨げるリスクを整理し、優先度に応じて対応している</p> <p>クラブでは、事故や感染症、災害など事業継続を阻害する恐れのあるリスクを洗い出し、優先順位をつけて対応している。感染症流行時には区保健所や区からの情報を活用し、学級閉鎖中の受入れや保護者への情報提供を行い、子どもへの繰り返しの注意喚起で行動変容を促している。災害時には区の指示を基に事業継続計画を認識し、携帯トイレの確保や飲料水の備蓄など、具体的な対策を周知している。事故や感染症発生時には報告書や日誌で要因を分析し、再発防止に努めている。</p> <p>子どもに遊び方とそのリスクについて話し、子ども自身が安全に気付く力を育てている</p> <p>クラブでは、遊びでのケガが多い現状を踏まえ、子どもを集めて遊び方と合わせてリスクについて話し、子ども自身が安全に気付く力を育てている。これはリスクマネジメントを子どもの主体性に結びつける良い取り組みとなっている。一方で、職員が子どもの遊びや生活の様子からリスクに気付くためには、さらにアンテナを高くする必要がある。日常的な観察力を強化し、潜在的な危険を早期に察知する姿勢が求められる。こうした改善は、事故防止や安全確保に直結し、事業所全体のリスクマネジメントの質を高めることにつながると思われる。</p> <p>区の基準に基づいて情報の収集・利用・保管・廃棄を行い、個人情報保護に努めている</p> <p>情報の収集・利用・保管・廃棄について区の基準に基づき処理している。子どもの行動記録は累積的に管理され、事業遂行に必要な情報は回覧やレインボーファイルで整理されている。アクセス権限は区の規定に従い、個人情報漏えい防止のため職員への注意喚起をしている。携帯電話には、一切アクセスできないようにしている。また、個人情報保護法の趣旨や区の規程を踏まえ、利用目的の明示や開示請求への対応を図っている。今後は、クラブ独自の規程の整備を課題として捉えている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			10/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇●●)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

配置された職員が知識やスキルを伸ばせるよう研修に力を入れている

人材確保は区の人事異動に基づいているが、配置された職員が知識やスキルを伸ばせるよう研修に力を入れている。児童館長は必要な人材像を伝え、区の人事計画に沿った配置が行われている。職員は「子どもの権利条例」やインクルーシブ教育について学び、現在の職務や将来の展望を理解する機会を持っている。人材育成は区の基礎研修やクラブでのOJTを中心に進められている。長期的なキャリアパスの提示は限定的であるが、日々の学びを積み重ねることで成長を支えている。今後は、事業所独自の視点を加えた育成計画の検討が期待される。

多様な方法で研修を行い、区の研修対象者には積極的に受講を促している

講師を招いた研修や動画学習、ロングミーティングなど多様な方法で研修を行っている。個別の研修計画はないが、区の研修対象者には積極的に受講を促し、チェックリストを用いて成果や課題を確認している。「遊び」「生活」「理解・かかわり」の3チームを編成し、課題の発見や改善提案を通じて指導力を高めている。職員の定着に向けては、勤務終了時の声掛けや休暇取得の促進により働きやすい環境を整え、子どもとのレクリエーションやゲームを通じて意欲を高めている。職員間の良好な関係づくりを重視し、安心して働ける職場を築いている。

職員は、研修会の学びの成果を共有しているほか、3チームで課題解決にあたっている

職員は区主催の研修会参加後に打合せで報告し、新BOP日誌に記録することで学びを共有している。日常業務では「遊び」「生活」「理解・かかわり」の3チームが課題に気づき改善に努める仕組みが機能しており、サービスの質向上につながっている。ロングミーティングでは課題の共有や改善策の検討を行い、全体への提案を毎月実施することでチーム活動を効果的に進めている。職員が仕事や職場に誇りを持ち、子どもの動きから課題を見つけて提案につなげる姿勢を支えている。日常業務をこなしながら課題を発見し挑戦を続ける姿勢が組織力を高めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

「安全・安心な運営の充実」「遊びやイベントを通じた社会性・主体性の育成」を掲げ、年間目標を挨拶・仲良く遊ぶ・手洗い習慣・ハンカチ携行・片付けと具体化した。

【具体的な取り組み】

遊びやイベントを実施し、挨拶や片付け、手洗い習慣の定着に向けて職員が声掛けを行った。安全面では廊下や階段で走らないよう繰り返し指導し、ロッカー収納は丁寧に教えるなど具体的支援を行った。

【取り組みの成果】

挨拶は定着したが、手洗いは職員が見ていないと行わない子どもが多かった。ハンカチ携行は保護者依頼にもかかわらず半数程度にとどまった。仲良く遊ぶ点では少人数での遊びが中心でトラブルも見られ、片付けは十分に定着していない。一方でロッカー収納は改善が見られた。安全面は職員がいる場面では効果があったが不在時には走る子どもが多かった。

【今後の方向性】

今後はトラブル対応を継続し、手洗いは職員配置で習慣化を図る。ハンカチは生活様式を踏まえ周知に留める。廊下・階段は必ず職員が見守る体制を徹底し、ロッカー整理は週末に声掛けを継続する。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、安全で安心な運営と遊び・イベントを通じた社会性や主体性の育成を目標に、挨拶・仲良く遊ぶ・手洗い・ハンカチ携行・片付けを年間重点として取り組んだ。職員が声掛けや具体的支援を行い、挨拶やロッカー収納の改善が見られた一方で、手洗いは職員の監督下でも十分とは言えず、ハンカチ携行も半数にとどまった。少人数での遊びによるトラブルや片付けの未定着、安全面での職員がいる場所でのみ活動することの課題も残った。

今後は手洗いの習慣化に向けた職員配置の工夫、ハンカチの周知、廊下・階段の見守り徹底、ロッカー整理の声掛けの継続を図っていくこととしている。課題は職員間で協議・共有し、PDCAサイクルに基づく改善を進め、組織的な課題解決力の向上につなげる方針である。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】

事業所は理念実現に向け、《育ってほしい子どもの姿》として「話を聞く」「丁寧な言葉」「物を大切に」「ルール・マナー遵守」「意見表明」「助けを求める」「挑戦」など8項目を課題に設定した。所管課の基準に基づき、職員の持ち味を活かした活動展開、課題共有と3チームによる検討、学校・保護者・地域との連携を方針とした。

【取り組み】

計画に沿い、学年別や遊びの種類別に話し合いを行い、集中して聞く態度を育成した。ロッカー収納の指導により整理整頓を促し、廊下や階段では職員が見守り走行防止を図った。意見箱の設置やトラブル時の話し合いを通じ、子どもの意見表明や助けを求める力を支援した。職員は子どもの声や表情から課題を捉え、改善策を共通実践する体制を整えた。

【結果】

話の聞き方は改善が見られ、集中できる子が増えた。収納は改善したが、遊具の扱いは乱暴な子が多く、廊下・階段も一部走る姿が残った。意見表明や助けを求める行動は工夫を重ねているが十分に定着していない。

【今後の方向性】

「子どもの権利条例」を踏まえ、意見表明権の具体的対応を検討する。課題共有と協議を通じた共通実践を継続し、次年度改善につなげる。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった○ 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none">● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none">● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは理念実現に向け、《育ってほしい子どもの姿》として8項目を設定し、職員の持ち味を生かした活動、課題共有、学校・保護者・地域との連携を進めた。学年別・遊び別の話し合いで「話を聞く力」を育み、ロッカー収納指導や廊下・階段の見守りで生活習慣の定着を図った。意見箱やトラブル時の話し合いを通じ、意見表明や助けを求める行動を支援し、職員間で課題を共有し改善を共通実践する体制を整えた。結果として聞く姿勢や収納は改善したが、遊具の乱暴な扱い、走行、意見表明の定着には課題が残った。今後は「子どもの権利条例」を踏まえた意見表明支援を具体化し、PDCAに基づく協議と実践で次年度の改善につなげていきたいとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
1	サブカテゴリ-1	
	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(○○○●)</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○あり ●なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ-1の講評		
<p>ホームページやおたよりなどで、保護者が安心して利用できる情報提供を行っている</p> <p>入会を希望する保護者に向けては、区のホームページに「新BOP学童クラブ児童募集案内」が掲載されている。入会手続きや年度当初の受付期間、必要書類のほか、学童クラブとBOPの違いなどの事業内容についても詳しくまとめられ、Q&Aも含まれているため、申し込みに必要な情報が分かりやすく整理されている。また、毎月発行される新BOPだよりや連絡協議会などを通じて、活動の様子や最新情報を発信し、地域の関係機関にも共有している。継続的な情報提供の積み重ねが、保護者にとって安心して利用できる環境づくりにつながっている。</p> <p>学校や地域におたよりを配布し、誰もが見やすく安心できる紙面づくりを工夫している</p> <p>新BOPだよりは、おもて面を保護者向け、うら面を子ども向けに構成し、月の行事や全日利用できる日をカレンダー形式で示すなど、家庭と一緒に確認しやすい工夫がされている。うら面は文字を大きめにし、イラストやルビを添えることで、低学年の子どもも自分で読んで理解できるよう配慮されている。さらに、児童館やまちづくりセンターにも掲示・配布し、地域の人々にも活動の様子を伝えている。こうした分かりやすい紙面づくりが、保護者や子どもが安心して通える雰囲気づくりにもつながっている。今後は、写真などの活用も検討している。</p> <p>入会希望者の見学に対応し、掲示物を通じて活動を身近に感じられる工夫をしている</p> <p>入会を希望する保護者や子どもからの問い合わせや施設見学の希望には、個々の状況に応じて丁寧に対応している。就学時健診の際には学校の協力を得て、新1年生の保護者に向けてチラシを配布し、学童クラブとBOPの活動内容や利用方法をわかりやすく説明している。見学に訪れた親子には、子どもたちが遊ぶ様子を実際に見てもらい、質問や相談にもその場で応じるなど、入会への不安を和らげる工夫がされている。子どもたちが色を塗って掲示する新BOPだよりの拡大版は、施設内でも目を引き、活動や情報を身近に感じられる工夫として効果的である。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入会説明会で丁寧に説明し、子どもと保護者が安心して利用できるよう配慮している</p> <p>サービス開始にあたり、子どもや保護者に理解が得られるよう、基本的ルールや重要事項を丁寧に説明している。3月に実施している入会説明会では、学童クラブのしおりや新1年生向けパンフレットなどを活用し、質疑応答の時間を設けて個別の事情に応じた補足説明も行っている。利用者負担金やBOPと学童クラブの違いなど、サービス内容についてもわかりやすく伝え、保護者の疑問にはその場で対応している。こうした説明を通じて、子どもや保護者の意向を確認し、十分な理解を得たうえで安心してサービスを利用できる体制が整えられている。</p> <p>新年度の開始にあたり、子ども一人ひとりに合わせた支援と安心できる環境を整えている</p> <p>新年度のサービス開始にあたり、子どもの個別事情や要望を児童票や保護者からの情報で把握し、事前に職員全員で共有している。4月当初は新1年生に育成室やトイレの使い方、学童クラブのルールをわかりやすく説明し、落ち着いた雰囲気の中で生活を始められるよう配慮している。職員体制を充実させ、子どもの動きに合わせた職員の1日の対応マニュアルを作成するなど、子どもの不安やストレスの軽減に努めている。配慮を必要とする子どもについては、生活状況や家庭での習慣も踏まえ、マンツーマン対応など個々の状況に応じた支援を行っている。</p> <p>学童クラブ終了後も安心して次の生活に移れるよう、支援と情報提供に努めている</p> <p>基本的に学童クラブの利用は3年生までとなっており、子どもや保護者の不安を軽減し、卒所後の生活をスムーズに送れるよう支援を行っている。地域の児童館利用を想定し、移動児童館や児童館まつりへの参加などを通じて、児童館への関心や関わりを自然に広げている。さらに、3年生の個人面談では、新しい環境への移行がスムーズになるよう、保護者と子どもの状況を共有し、必要な配慮をしている。近隣には児童館のほか、青少年センターやまちづくりセンターなど放課後の居場所が複数あるため、保護者に案内しながら次の生活への支援を行っている。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
子どもの実態や方針を踏まえ、3つのチームで検討し全体の計画に活かしている 子どもの実態や家庭の意向を踏まえ、育成支援の年間目標に沿った計画を作成している。リーダー層から示された新BOP運営に関する「育ってほしい子どもの姿」や運営方針をもとに、職員は「遊び」「生活」「理解・かかわり」の各チームに分かれ、毎月、課題の検討や実践内容を共有し、具体策をミーティングで決定するプロセスを大切にしている。子どもの様子や状況の変化については、「理解・かかわり」チームを中心に、児童の行動を記録した児童記録ファイルを基にして共有し、子どもたちへの関わり方を毎月検討している。			
記録や引継ぎ体制を整え、支援内容を確実に共有できるよう工夫している 児童記録ファイルや児童サポート表、新BOP日誌を活用し、日々の子どもの行動や変化を具体的に記録している。気になる子どもの様子は、リーダー担当職員が日誌に記入し、必要に応じて保護者や学校の担任とも共有している。特に配慮が必要な子どもについては、個別記録やミーティングノートに詳細を残し、援助内容や子どもの反応を職員全員で確認できる体制を整えている。また、一日育成の日はシフトにより職員の共有時間が限られるため、情報共有に漏れがないよう、通常とは別に引継ぎノートを用意して支援に努めている。			
日々の保護者や子どもから聞きとった情報を、職員全体で共有できるようにしている 子どもに関する情報は、日々のミーティング等を通じて全職員で共有している。1年生が生活に慣れる6月頃までは職員数が不足していたこともあり、怪我やトラブルが生じることもあったが、その後の増員により改善されている。特に、子どもと密に関わるプレイングパートナーとの夕方のミーティングでは、職員が把握しきれない困りごとや小さな怪我も引き継ぎ、全体で共有できるよう工夫している。また、日々のお迎え時の保護者との会話や個人面談を通じて得られた子どもや家庭の状況の変化についても、全職員で共有するよう努めている。			

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外者とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している ○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>区の「子どもの権利条例」やチェックシートで子どもの権利と人権の理解を深めている</p> <p>子どものプライバシー保護を徹底しており、写真の掲載や外部への情報提供の際には、必ず保護者の同意を得ている。着替えが必要なときは、事務室内にカーテンで仕切った場所を作り、その中で行えるようにしている。個人情報には職層ごとに閲覧範囲を制限し、鍵付き書架で厳重に管理している。さらに、区の「子どもの権利条例」の読み合わせを職員ミーティングで行い、子どもの権利や人権への理解を深めている。プレイングパートナーにも「人権チェックシート」を用いて関わり方を振り返る機会を設け、日常の中で子どもの尊厳を守る意識を共有している。</p> <p>日常の関わりで子どもの意思を尊重し、講話を行い子どもが自ら考える機会を設けている</p> <p>子ども一人ひとりを大切に、日常の中でその意思を尊重した関わりを心がけている。例えば、「帰る時間を過ぎたけれど、あと何分で出られそう」「お母さんではなく、あなたはどうか」と問いかけるなど、子ども自身が考えて決められるような機会をつくっている。月に一度の講話では、子どもの権利について分かりやすく伝え、自分や友だちを大切にする心を育てている。また、家庭ごとの生活習慣や価値観にも配慮し、お迎え時の会話や個人面談で得た情報を共有しながら、保護者の意向を尊重した柔軟な支援を行っている。</p> <p>一人ひとりの様子を丁寧に見守り、トラブルなどの対応を早めに行えるようにしている</p> <p>子ども同士のいじめやトラブルが起きないように、日常的に一人ひとりの様子を見守り、早めの対応を心がけている。声が大きくなり衝突につながりそうな場面では、職員が間に入り、落ち着いて話し合えるよう支援している。おとなしい子どもには特に目を配り、困ったときにどうすればよいかを伝えるなど、安心して過ごせるよう寄り添っている。また、子どもの良いところを意識的に見つけて職員間で共有するなど、温かく肯定的な雰囲気づくりを大切にしている。こうした日々の積み重ねを通して、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりにつなげている。</p>	

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>運営基準・方針、手順が整備され、日常的に活用できるような情報共有の仕組みがある</p> <p>区の新BOP運営基準や運営方針、管轄児童館の3クラブ共通の運営「チェックリスト」、各種マニュアルを整え、サービスの基本や手順をわかりやすく示している。事務室には、区の規定や基準をまとめた「レインボーファイル」を置き、職員がいつでも確認できるようにしている。また、毎日のミーティングで業務の確認を行い、リーダー層は必要に応じてマニュアル参照を促す声かけをしている。重点箇所はコピーして回覧することとしている。こうした工夫により、職員が共通の認識で仕事に取り組める環境づくりが進められている。</p> <p>方針や手順に基づく支援についてチェックリストで確認し、随時見直しを行っている</p> <p>方針や基準に沿って活動ができているかを、チェックリストで定期的に確認し、見直しを行っている。気づいた課題はミーティングで共有し、改善に向けた工夫を話し合いながら実践している。日々の子どもの受け入れや間食の流れ、行事での子どもや職員の動き方、配慮が必要な子どもへの対応など、さまざまな細かい手順書も分かりやすくまとめられている。これらの手順や支援方法は、3つの運営チームで分野ごとに検討し、全体ミーティングで意見を出し合いながら更新している。定期的な見直しを重ねることで、より良い支援や運営につなげている。</p> <p>活動の中で子ども・保護者・地域の声を受け止め、運営や支援に反映している</p> <p>子どもたちの意見は意見箱を設置して集め、日々の遊びや会話の中でも自然に要望をくみ取りながら、遊びのリクエストや行事内容などに子どもの思いを反映している。また、保護者には毎月の新BOPだよりで方針や活動内容を伝え、お迎え時の会話や電話連絡、連絡アプリ、個人面談などを通してコミュニケーションを取り、要望を聞いている。特に配慮が必要な子どもの保護者とは日々情報交換を重ね、支援に活かしている。新BOP連絡協議会においても運営方針などに関する意見交換が行われており、寄せられた意見は次年度の運営に反映している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29/29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>発達や生活環境を考慮した個別支援について職員間で共有している</p> <p>一人ひとりの発達状況や家庭環境を丁寧に把握し、個人面談などを通して保護者との理解を深めている。支援内容や成長の様子をミーティングで共有し、支援の方向性を確認し、対応の統一化を図っている。支援の際には、子どもの思いや背景を踏まえた声かけを心がけ、安心して過ごせる環境づくりを重視している。また、活動を通して自分の得意なことを発揮できる場を作り、自信を育てる取り組みもしている。保護者には母国語で話す人もいるため、子どもや職員を介して通訳し、理解に努めている。こうした日々の関わりが、柔軟な支援の基盤となっている。</p> <p>子ども同士の関係性を育む支援を行い、他者への理解を深めている</p> <p>子ども同士が互いの違いを認め合い、思いやりをもって関わられるよう職員が見守り、必要に応じて仲介している。年齢差や考え方の違いを受け入れる経験を通して、協力や協調する力が育まれている。子ども同士のトラブルが生じた際には、職員は客観的に経過を確認し、子どもが自分の気持ちを整理できるよう支えている。正解を押しつけるのではなく、子ども自身が「どうしたらよかったのか」に気づけるよう導きだしている。それは自立した考え方や他者の理解が深まり、その結果、仲間同士の温かな関係の中で、互いに学び合う雰囲気が築かれている。</p> <p>障害や特性に応じた成長する機会を提供し、ともに学びあえる環境がある</p> <p>発達面で配慮が必要な子どもには、職員が遊びや活動の場で他の児童の仲間に入れる機会を意識的に作り、輪の中に入れるよう橋渡しをしている。また、自分のペースで取り組めるよう活動内容を工夫し、得意なことや興味のあることを活かしている。思い通りにならず葛藤する場面もあるが、職員は子どもの小さな成功と一緒に喜び、安心して挑戦できる経験を積ませることで、自己肯定感や社会性の成長につなげている。こうした支援により、特性のある子ども一人の仲間として自然に受け入れられ、共に学び合える環境が整っている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>自主性を尊重し、主体的に過ごせる環境は行動力と自信を育てている</p> <p>「子どもの権利条例」の観点から、子どもの「やりたい」「やってみたい」「やりたくない」という気持ちを尊重し、自発的な遊びが展開できるような環境を整えている。子どもや職員の得意なことを活動に取り入れ、相互に教え合う中で自然な学び合いが生まれている。一輪車やドッジボール、けん玉や折り紙などでは、上手な子どもが指導する姿も見られ、お互いを認め合う関係が育っている。職員は見守りと助言のバランスを意識し、子どもの判断を妨げない関わりを心がけている。その結果、自分の考えを行動に移す力と自信が育まれている。</p> <p>集団生活を通して関わりと学びを広げ、コミュニケーションのある生活を支援している</p> <p>遊びの中でコミュニケーションを育む集団ゲームを取り入れ、一人遊びや決まった友達以外との関わりを広げることを大切にしている。リーダーやメンバーの役割を経験する機会を意識的に設け、相手の意見を聞いたり譲り合ったりする体験を重ねている。活動の中で子どものアイデアや意見をも取り入れてさらに楽しくする工夫もしている。集団の中で自分の役割を理解し、互いに支え合うことの大切さを学んでいる。集団の中で自分の役割を理解し、互いを支え合う力が育まれている。職員も安全面に配慮しながら、心と体が豊かに成長できるように見守っている。</p> <p>生活習慣と社会性を育む日常的な援助を行っている</p>			

手洗いやうがいの励行、ロッカーなどの整理整頓や荷物の管理など、生活習慣の自立を促す援助を日常的に行っている。職員は一斉指導に加え、子ども一人ひとりの理解度や気持ちに寄り添った声かけを心がけている。できたことを丁寧に認め、励ますことで意欲を高めている。また、ハンカチの持参を呼びかけるなど生活面での課題は、BOPだよりを通して保護者に伝え、家庭との連携を図っている。こうした取り組みにより、子どもたちは生活の中でマナーや社会的ルールを自然に学び、自立への意識が育まれている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子ども同士が意見を交わしながら、主体的に行事や活動を進める力を育てている</p> <p>地域のおまつりなどの行事では、子どもが実行委員として自ら希望し、活動に関わっている。参加希望児童の保護者には文書で周知し、個別説明を行うことで家庭の理解と協力を得ながら、子どもの自発的参加を促している。行事の準備から片付けまでを一貫して行うように組み込み、責任をもって活動をやり遂げる姿勢を育てている。遊びやチーム対抗ゲームでは作戦会議を取り入れ、子ども同士で意見を交わしながら主体的に活動を進める力を育てている。今後もこの取り組みを継続し、行事を通して自ら考え行動する力を伸ばしていくことが期待される。</p> <p>学童クラブならではの、幅広い年齢層の児童が関われる機会づくりが期待される</p> <p>地域行事への参加では、低学年の希望が多い傾向があるが、学童クラブならではの異年齢集団の特性を意識し、幅広い年齢層の児童が関われる機会づくりは今後の課題として挙げられる。日常活動のチーム対抗の試合などでは、異年齢の活動を意図して運営されている。年齢の異なる子ども同士が関わることで、新たな発想や工夫が生まれ、活動に一体感や達成感が増している。今後も、学童クラブの特性を活かし、異年齢での交流をより豊かにしていく取り組みの発展に期待したい。</p> <p>子どもの意見を反映する仕組みにより、自己肯定感と信頼関係を深めることが期待される</p> <p>子どもたちの意見を日常の活動や行事に反映するため、奇数月に意見箱を設置している。寄せられた意見をできる限り取り入れることで、子どもが「自分たちの声が届く」と感じられる環境づくりに努めている。実際に、多くの子どもが意見を聞いてもらえると感じている。一方で発言を控える子や参加に消極的な子もいるため、意見を言いやすい雰囲気づくりや口頭での意見交換の場を増やすなど、多様な方法で思いを表せる仕組みも必要と思われる。今後も子どもの意見表明を積み重ね、自己肯定感とクラブへの信頼関係をさらに深めていくことが期待される。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>生活の見通しをもって主体的に過ごすための環境づくりを行っている</p> <p>自分で生活の流れを把握し、見通しを持って過ごせるようホワイトボードを活用して活動内容や間食の時間、遊ぶスペースなどを掲示している。オルゴールのBGMを流し、静かな時間への切り替えを自然に促すなど、生活リズムを意識づけている。こうした環境設定は、子どもの主体的な行動を支え、学童での安心した生活の基盤となっている。</p> <p>子どもの気持ちや感情に寄り添い、安心して過ごせるように支援している</p> <p>学校でのトラブルなどを抱えて帰所する児童には、まず気持ちに寄り添い、傾聴して安心できる時間を確保している。状況に応じて学校とも情報を共有し、子どもの感情の整理を支えられる取り組みは大きな強みである。学童は家庭と学校の中間的な存在として、安心できる受け皿であることが求められる。こうした姿勢は、子どもの心の安定と学童への信頼を育てているといえる。一方で、利用頻度が低い子どもの様子を把握しづらいという課題もある。保護者と連携し、子どもの状況を共有する仕組みをつくり、よりきめ細かな支援体制を整えることを期待される。</p> <p>新BOPの一体的運営による多様な活動参加と学びの促進を図っている</p> <p>学童クラブとBOP(放課後子供教室)を一体的に運営し、子どもが両方の活動に自然に参加できるよう連携している。子どもは活動の幅が広がることで、自ら遊びを選び、挑戦する経験を積むことができている。また、利用人数が多い場合には体育館や他室を活用するなど、柔軟な環境づくりにも取り組み、快適で安全な生活空間を確保している。こうした新BOPでの連携体制は、放課後の学びや社会性の育成にもつながっていると思われる。子ども自身が活動内容の選択や企画に関われる仕組みは、主体性の発揮と自己肯定感の向上につながっている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校や出身園との連携により、生活の連続性の確保ができています</p> <p>クラブでは、学校と密に連携し、子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう努めている。学校でのトラブルを学童に持ち込まないよう副校長や担任と連絡を取り合い、子どもの状況を相互に共有している。また、4月の入所時には保育園や学校からの引き継ぎを受け、子どもの性格や配慮事項を把握するなど、生活の連続性を意識した支援体制が整っている。さらに、子どもの安心感を支えるため、教職員と学童の職員が同じ方向性で対応できるようにしている。</p> <p>配慮が必要な子どもへの支援について、学校及び職員間で支援の統一を図っている</p> <p>気になる子どもや集団に馴染みにくい子どもなど、個別の支援を要する子どもへの配慮を重視している。保護者との面談や日々の会話から子どもの変化を丁寧に把握し、必要に応じて学校と連携し、支援の方向性を確認している。一部のケースでは学校との情報共有や連携が十分ではない状況もあるが、その場合も職員間でケース会議を行い、対応を統一化している。今後は、保護者の同意を得ながら学校との連携を拡充し、子どもが安心して自分らしく過ごせる場となるような支援体制を充実させていくことにも期待したい。</p> <p>専門機関との連携強化により、専門的で一貫した支援を行える体制づくりが望まれる</p> <p>発達に課題を抱える子どもに対して、療育機関や区の巡回支援、育成委員会などの外部専門機関と連携し、助言を受けながら支援を進めている。年度当初に衝動的な行動が見られた子どもも、丁寧な関わりを重ねることで関係性が築かれ、安心して過ごせるようになってきている。現場の観察と専門的支援の両面から子どもを支える体制が整っている。一方、支援を必要とする児童が増える中で、専門家の訪問頻度や助言機会の不足が課題となっている。定期的なケース検討会や研修を通して職員の理解を深め、より専門的で一貫した支援体制の充実を期待したい。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>落ち着いて間食を楽しめる雰囲気づくりに配慮し、マナーを学ぶ場ともしている</p> <p>「すわれませう」「ごちそうさま」など、空席を知らせるカードを使用し、混雑や席のトラブルを防いでいる。子どもが自分のペースで席を選び、友達と楽しく過ごせるように環境を整えている。職員は間食の時間は見守っているが、必要に応じて会話や雰囲気を通して交流が深まるよう配慮している。自然にマナーを学べるように口頭や行動で示しながら促している。間食の時間が単なる「喫食の場」だけにならないよう、関わりを大事にしている。</p> <p>アレルギー対応やメニューなど、安全意識の高い支援が継続してなされている</p> <p>間食のメニューは1か月毎に児童課から送られてくる。児童指導職員は週ごとにメニューの組み合わせを工夫し提供している。子どもが「もう少し食べたい」「食べたくない」と感じたときには、自分の体調や満腹感を意識させる声かけを行い、自己管理を促している。食物アレルギー対応では、提供前の複数職員によるチェック体制や、専用席を設けて誤食防止を図っている。職員はエビペンの使い方などを研修で学び、緊急時の迅速な対応に備えている。こうした体制により、子どもが安心して間食を楽しむ環境が保たれており、安全意識の高い支援を継続している。</p> <p>心の成長や自主性を含めた豊かな学びの場となるよう心掛けている</p> <p>間食の時間は、子どもが主体的に選択し仲間と関わる貴重な機会にもなっている。座る場所やタイミングを自分で決めることにより、自主性や判断力が自然に育まれている。また、友達と一緒に食べる楽しさを味わう中で、会話も楽しみながら相手との距離感や協調性が身についている。職員は「一緒に食べる」「席を譲り合う」などの場面を大切に、互いを思いやる関係づくりを支えている。片づけや清掃を自分の役割として意識できるよう働きかけることで、食後のマナーも定着しつつある。生活習慣と心の成長を含めた豊かな学びの場となるよう心掛けている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子ども自らが心身の健康を意識しながら、自己管理能力も高められるよう支援している</p> <p>職員は登所時や活動中に、表情や行動、体調の変化を観察し、必要に応じて休息や水分補給を促している。発熱が37.5度以上の場合や体調不良の時は保護者に連絡し、迎えに来てもらう体制を整えている。子どもが自分の体を大切にできる意識を持てるよう、日常生活では手洗いの励行、トイレのサンダルへの履き替えなど日常的な習慣を声かけで促している。子ども自身が体調管理や衛生習慣に関心を持ち、自ら行動できる力を育成している。こうした取り組みの積み重ねにより、子どもが自ら心身の健康を意識し、行動できる力が育まれている。</p> <p>安全確保と緊急時対応について、職員全体で確認しながら体制を築いている</p> <p>職員は始業時に安全確認や遊具点検を実施し、子どもが安心して過ごせる環境を維持している。頭部(首から上)を打った場合のケガは必ず保護者へ連絡し、指示を仰ぐことを徹底している。また、事務室には病院リストや事故・災害時などのフローチャートを掲示し、職員全員が確認できるようにしている。廊下や教室での安全な歩行を繰り返し知らせたり、職員の見守る位置の工夫や声かけを確認したことで、出合い頭の衝突など事故のリスクも減少している。校内にあるAEDの位置や使い方についても確認し、緊急時に迅速な対応ができるようにしている。</p> <p>職員は研修や事例検討を通して、子どもの安全や健康に関する対応力を高めている</p> <p>医療的ケアが必要な児童は現在在籍していないが、職員は応急手当や医療ケアの研修を受けて備えている。マニュアルについても、いつでも閲覧できるように書棚に置いている。障害や健康面で配慮が必要な子どもについては、療育機関や区の巡回支援、専門家からの助言を活用し、個別の支援計画を作成し、援助している。子どもの日常の手洗いなどの健康指導や、ケガ予防などの安全教育も職員が一貫して行っている。ヒヤリハットの事例なども職員間で共有し、振り返りを行っている。職員全体で事故や災害への対応力を高めている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の事情に応じて柔軟に対応し、安心して預けられる環境を整備している</p> <p>保護者の就労状況や家庭の事情に応じて、帰宅時間の変更や延長利用のスポット利用などに柔軟に対応し、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりに努めている。延長利用は日によって大きく変動し、通常は1～2人から10人程度である。勤務先や生活環境の変化があった際には、保護者からの自己申告を基に変更届の提出を促している。外国籍や多言語家庭の保護者も一定数おり、可能な範囲で英語対応できる職員が連絡や相談にあたり、家庭ごとの事情に合わせた配慮で支援している。</p> <p>個人面談や保護者会、日常的な保護者との連絡を通じて良好な関係づくりに努めている</p> <p>個人面談は常勤職員が対応し、1年生は全員、2・3年生は希望に応じて実施している。面談内容は記録・ファイル化し、全体で共有している。特に気になる子どもについては、より良い支援につなげるため面談を提案し、児童票の提出に至ったケースもある。保護者会では、参加を促すために日常の子どもたちの活動を撮影した映像を用いて様子を伝えている。さらに、新BOPだよりで活動状況を知らせるほか、ケガや病気の際には保護者へ迅速に連絡し、お迎え時の会話や電話・連絡アプリを通じて、相談しやすい関係づくりに努めている。</p> <p>出欠席確認を徹底し、安全確保の取り組みを行い、自立や安全意識への提案をしている</p> <p>出欠席の確認は連絡アプリで行い、保護者が子どもの入退室時間を把握できるようになっている。未申請の欠席があれば職員が直接電話で確認し、出席予定の子どもが来ない場合は保護者に連絡し、必要に応じて自宅付近まで探しに行くなど、安全確保の取り組みを行っている。また、入会前に配付するパンフレットには、「鍵の管理方法」「初めての留守番」「家族でのルール作り」「地域を知ろう」など、入会前に準備しておくことや、一人で帰る子どもの安全確保に関する内容を掲載し、子どもの自立や安全への意識付けにつなげている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>音楽会やジャグリングショーを通じて、地域とつながる楽しい体験の機会を提供している 毎年夏休みには、PTAや学童クラブの保護者など地域の演奏家グループによる歌やバイオリン、ピアノのコンサートを開催し、子どもたちが音楽に親しむ機会を設けている。また、指導員のつながりを生かして大道芸グループが訪れ、玉乗りやポール、フープを使ったジャグリングショーを間近で楽しむ機会もある。さらに、地元中学生の職場体験の受け入れも行い、一緒に遊ぶ中で交流を深めている。地域の文化や人との出会いを通して、地域に支えられながら、子どもたちの経験の幅が広がっている。</p> <p>児童館との連携を通して地域とのつながりを深め、子どもたちの世界を広げている 管轄の児童館は複合施設内にあり、施設全体のまつりの中で児童館まつりも開催されている。子どもたちは出店内容を主体的に話し合っ て企画し、自分の役割を見つけ、協力して参加することで、自主性や主体性を育てている。また、地域の子どもや大人と自然に関わる機会にもなっている。さらに、児童館と連携して体育館を利用し、移動児童館によるゲームイベントも年2回実施している。新BOPでの児童館職員との交流が児童館利用へとつながり、地域の中で人とのつながりを感じながら、子どもたちは自分の世界を広げている。</p> <p>地域の方々との意見交換を重ね、子どもが地域と共に育つ環境づくりに努めている 新BOP連携協議会を年3回開催し、日ごろの学童クラブの活動の様子を伝えとともに、地域の方々の意見を取り入れ運営に生かしている。職員は児童館地域懇談会や拡大学校協議会にも出席し、地域のニーズや子どもの様子を共有している。さらに、他の管轄新BOP職員も含めた定例会議に参加し、窓口業務も支援するなど、多くの場面でのつながりを大切にしている。また、新BOPだよりでは利用できる施設を紹介し、子どもたちが地域に親しむきっかけ作りを行うなど、子どもたちが地域と共に育つ環境づくりに努めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	意思決定の透明性を高め、職員間で課題を共有し、解決への実践につなげている	
内容①	クラブでは、月1～2回のロングミーティングを実施している。1時間以上の時間をかけ、できる限り全員が参加できる日に設定している。その場では、毎月事務局長から配布される資料をもとに、重要事項の説明や運営方針の確認を行い、組織的な意思統一を図っている。さらに、職員を「遊び」「生活」「理解・かかわり」の3チームに分け、チームごとに課題や改善策を話し合ったうえで、全体の場で提案・検討し、具体策を決定するプロセスを重視している。意思決定の透明性を高め、職員全体で課題を共有し、解決に向けて実践できるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	子どもの遊びや主体的な活動の様子をおたよりで伝え、保護者や地域の理解を深めている	
内容②	「新BOPだより」を通じて、子どもと共により良い居場所づくりを目指す活動の様子をわかりやすく発信している。BOPの登録・利用状況をはじめ、毎月の行事予定や室内外での遊び、実施した行事の様子などを掲載している。さらに、意見箱を活用した子どもの希望や意見の収集・反映、集団ゲームによる異年齢交流、英語の歌に親しむ体験、夏休みを楽しく過ごすために子どもと工夫した活動内容など、多彩で具体的な取り組みが紹介されている。子どもが楽しみながら主体的に関わる姿が伝わり、保護者や地域の理解をさらに深めるものとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの意見や思いを尊重し、関わりの積み重ねが自信と集団生活の豊かさを育てている	
内容③	「子どもの権利条例」の「意見表明の権利」を踏まえ、職員は子どもの思いを受け止め、否定せずに対話を重ねる姿勢を大切にしている。活動や遊びの計画にあたっては、意見箱や話し合いの場を通じて子どもの意見を反映し、達成感や満足感が得られるよう工夫している。さらに、職員間で声かけや関わり方を共有し、子どもが安心して意見を言える雰囲気づくりに努めている。日常生活の中でも互いの意見を認め合い、助け合いながら成長できるよう支援しており、こうした関わりの積み重ねが子どもたちの自信と集団生活の豊かさを育てている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「遊び」「生活」「理解・関わり」の3チームで課題を検討し、改善と提案を重ねるプロセスを大切に子ども主体の支援を進めている
	内容	「遊び」「生活」「理解と関わり」の3チームを組織し、日々の活動の中で見つけた課題を抽出・検討し、全体に提案、共有する仕組みが確立されている。遊びチームは活動内容や環境整備、生活チームは季節に応じた過ごし方や子どもの意見の反映、理解・関わりチームは配慮が必要な子どもの支援方法などを検討している。それぞれの内容を月次のミーティングで共有し、改善や子どもへの提案へとつなげている。こうしたプロセスを大切にする事で、職員の主体性と共通理解が高まり、より良い支援と子ども主体の支援環境づくりが着実に進められている。
2	タイトル	学校との連携を通して子どもの状況を理解し、安心して放課後を過ごせる生活環境を整える取り組みが信頼関係の構築につながっている
	内容	子ども同士のトラブルに対して丁寧に対応し、気持ちの整理ができるよう支援している。学校から帰所した際にわかまりを引きずらず、クラブ内での出来事を学校生活に持ち込まないよう配慮し、放課後の生活が安定するよう環境づくりを進めている。心の葛藤が放課後の過ごし方に影響を与えることを踏まえ、学校と連絡を密に取り合い、子どもの様子や行動特性、発達段階なども共有して支援にあたっている。多くの子どもは「困ったときに職員に話すと聞いてくれる」「解決してくれる」と感じており、信頼関係が構築されていることがわかる。
3	タイトル	月2回の「講話・懇談」を通じて子どもの成長段階に応じた対応につなげており、寄せられた意見にも丁寧に対応している
	内容	クラブでは、子どもに向けた「講話・談話」を月2回実施している。生活や遊びの場面から具体的な子どもの姿を取り上げて、子どもに分かりやすく伝えながら、成長段階に応じた対応につなげている。今年度から、1年生と2年生以上を別室に分けて実施するなど、工夫も図っている。講話・懇談の内容は「新BOPだより」を通じて家庭にも共有され、保護者との連携強化にも寄与している。また、隔月で設置されている意見箱は生活チームが管理し、出された意見は翌月に発表して子どもたちへ丁寧にフィードバックしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	区の研修を積極的に活用し、職員が新たな視点を心得て成長し、支援力と組織力のさらなる向上につながることを期待される
	内容	研修については、アレルギーやてんかん、けが、嘔吐、防犯対応など、安全管理に関わる実技研修を計画的に行っている。職員間で課題を検討・共有し、日々の子どもへの支援の中で互いの学びを活かそうとする仕組みもある。一方、区の研修は人数の制約もあり、参加者が少ない現状がある。今後は、区の研修への参加を促すとともに、管轄児童館内の新BOPとの合同研修などを実施し、他の実践に触れる機会を増やすことで、新たな気づきや意欲を育て、職員の力量向上とより良い支援につなげていくことが期待される。
2	タイトル	子ども自身が衛生の大切さを理解し、家庭や学校とも連携して健康的に過ごせる環境づくりを進めていくことが期待される
	内容	コロナ禍を経て、消毒やペーパータオルの使用などの衛生習慣は一時的に高まったが、現在は意識の希薄さが見られる。手洗い、トイレのサンダルの履き替えなど、基本的な衛生指導を継続的に行っているが、「なぜ必要か」を子ども自身が理解し、自ら行動できる学びの機会を継続することも必要と思われる。季節の変化に応じた感染症対策や手荒れ防止への配慮も同様である。環境衛生への意識を職員全体で共有しているが、今後は保護者や学校とも連携を図りながら、共通認識を深め、子どもたちがより健やかで安全に過ごせる環境づくりが期待される。
3	タイトル	学校側との協力をさらに進め、子どもが安心して活動できる環境を維持するために、スペース拡大の検討を進めることが期待される
	内容	クラブでは、学校と日々連携して情報共有を行い、利用状況や施設使用の最終確認をしている。しかし、当日の急な変更などもあり、柔軟な対応が求められている。同一建物での運営においては、教職員の働き方改革を踏まえ、休憩時間や動線に配慮した調整が必要である。職員は工夫を重ねているものの、年々利用者が増加し、現行スペースでは限界に近い状況が見られる。今後は学校側との協力をさらに進め、子どもが安心して活動できる環境を維持するため、同一建物での運営を意識しつつ、利用可能なスペース拡大について検討することが期待される。